

「日々の理科」(第 4130 号) 2025, 11, 30

「石神井川下流の流路変遷（最終回）」

お茶の水女子大学サイエンス＆エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



「音無さくら緑地」に石神井川の上流側から入ると、遊歩道はゆるやかな左カーブを描いています。これは河川改修前の「旧石神井川」の流路の形状がそのまま残っているわけで、それを実感できます。



旧流路の一番奥の部分には、崖があります。ちょうど屈曲部の一番曲がった部分で、浸食が最も激したった部分です。この崖は都内では珍しい、護岸工事がされていない「自然の崖」です。石神井川の下流部は、武蔵野台地の東端なので、この崖の地層は当然「武蔵野ローム層」だと思っていましたが、ちがいました。

実はこれは「下末吉層」という海成層で、「縄文海進」よりもずっと以前の「下末吉海進」という時代に、海底で堆積した地層です。「海底」といっても、実際は干潟か河口汽水域だった可能性が高いようです。実際に、海に住んでいた貝類の化石が発見されています。



この地層は小さな流れの向こう側にあって、直接触れることはできません。しかし、明らかにこの露頭由来の剥離片がいくつも落ちていたので、それを採取しておきました。もし下末吉層由来のものなら、顕微鏡で観察すれば、变成岩由来のザクロ石片が多数見つかるはずです。



音無さくら緑地の「観察」を終えて、音無橋下の親水公園に降りてみました。ここにはかつて石神井川の本流が流れ、そのまま王子駅に下っていました。今の石神井川は別の流路で、暗渠化されています。



こちらが現在の石神井川本流です。急傾斜を勢い良く「水路のトンネル」に下っていました。さあ、珍しい「北区産の地層標本」の顕微鏡観察が楽しみです。